

■■■ 2009年度総会報告 ■■■

月13日(土)、KFCの2009年度通常総会と総会の前に研修会を開催しました。

総会の前に恒例となった研修会では、2回にわたりKFCニュースで「日本移民史と現在のブラジルの状況」を執筆してくれた大阪大学大学院博士課程に在学している山本晃輔さんから、「日系ブラジル人社会を訪ねて」というタイトルでブラジルの写真やデータをプロジェクターで写しながら話をしてもらいました。

日系ブラジル人の子どもの教育に関心が高い山本さんは、日本で暮らした経験を持つブラジルに移動(帰国)した子どもたちに会いインタビューしていくなかで、日本での生活を多くの子どもがポジティブに捉えていることに驚くとともに子どもの柔軟性に希望をもったというような趣旨の発言をしました。一方、昨年度の金融危機の影響で高校進学直前にブラジルへ移動した子どもが進路の大きな壁にぶつかっているという現実について日本、ブラジルの教育関係者の連携が重要であるという課題についても細かく話をしてくれました。

KFCが取り組んでいる「外国にルーツを持つ子どもの学習支援」の現場を見てても感じるのですが、子どもの社会への適応能力や柔軟さ明るさは、おかれている環境の厳しさや課題と対比すると何か矛盾しているようにも思えます。ですが本来子どもの世界には、いくつもの可能性が広がっているからか、もしくは自らが発育していく過程で発するエネルギーからか「つまらない日常」に流されがちな「大人の社会」とは違う時が流れているようです。子どもの豊かな時間づくりを支援することは、同じ時間を過ごす大人にも豊かな時間をわけてもらうことかも知れません。形式的な教育課題の発信だけでなくいきいきとした子どもの姿をKFCはもっと発信していく必要があるのかなと思いました。

総会では、2008年度の事業報告、会計報告の後でKFCの新役員人事が確認されました。理事は変わらず法人発足時からKFCの監事を務めていただき、交通事故の後遺症で体調不良にもかかわらずKFCの運営を支えていただいていた大賀重太郎さんが辞任され新監事として田村芳春さんが選任されました。

続いてKFC2009年度事業計画と収支予算案の審議に移り、KFCとして大きな事業計画となる外国にルーツを持つ子どもの支援拠点となる「多文化子ども共育センター(愛称:MOI)」、またディサービスによる在日コリアン高齢者支援事業の限界や課題を克服するため新たに訪問介護支援事業所、居宅介護支援事業所として「ハナ介護サービス」の設立などが提案どおり承認されました。詳細は、総会資料を参照してもらえればと思います。

このニュースが発行される頃には、新しい外国人法制が国会で成立しているかも知れませんが、日本の外国人法制は大きな変更を遂げようとしています。従前の外国人登録法が廃止され、出入国管理及び難民認定法(入管法)と在日コリアンら旧植民地出身者に適用される入管特例法に多くの内容が移行しようとしています。住民基本台帳にいままで載らなかった在日外国人が登録されるなど生活の利便が推進されるところもありますが、入国管理局による一元管理がさらに進む危惧もあります。

また新しい法律在留資格の取消事由には、新たに「日本人または永住者の配偶者としての活動を継続して3ヶ月(修正案では6ヶ月)以上行なわないで在留していること」という規定が追加され、やむなく母子家庭となっている外国人の家族が日本から退去強制されるような事態も生まれそうです。

必要な時に必要な外国人だけを入れ、いらなくなったら厄介者扱いするような法律しか持たな

い社会ではなく、暮らしている街をあたりまえに故郷にできるようKFCとして今年度も皆さんと活動できればと願っています。(金 宣 吉)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆日本語ボランティアを続けている理由

2008年度の文化庁の報告によると15歳以上の日本語学習者の数は約16万6千人、その内、大学等機関や日本語学校以外で学習している方は約7万3千人です。また、全国の日本語教授者は約3万1千人、その中には日本語ボランティア約1万6千人も含まれています。

日本語学習において日本語ボランティアが多いのはどうしてでしょうか。

今回KFCの支援者に「ボランティアを続けている理由は？」という形でアンケートを行い、23名の方から回答を頂きました。

日本語ボランティアを続けている・続いている理由 [複数回答可]

●在住外国人に日本語が必要だと思うから

(21名)

●外国の人の役に立ちたいから (17名)

●日本語について考える機会になるから

(16名)

▲時間に余裕があるから (12名)

もし時間の余裕がなくなった場合は続けますか

→ (やめる3名 やりくりして続ける4名

わからない4名)

・語学に興味があるから (9名)

●外国出身の人に出会えるから (9名)

・教えることが楽しいから (8名)

▲近所に活動場所があるから (8名)

▲ボランティア仲間に出会えるから (5名)

★将来日本語教師になりたいから (3名)

★以前日本語を教えていて、それをいかしたいから (2名)

・ 活動内容が面白いから (2名)

※具体的に何でしょう？

・日本語の色々な面を知ることができるから。日本人の常識は外国人には常識じゃない。

・ボランティアの方、学習者の方、いろいろな方に出会えるから。

●国際的だから (1名)

項目を●、▲、★、・で分類してみました。

▲は他のボランティア活動でも続ける理由になるでしょうが、●は日本語ボランティアならではの理由でしょう。この中でも「日本語が必要である」「外国の人の役に立ちたい」「日本語について考える機会になる」欄に半数以上の方がチェックを入れています。

私は、時間のある方や語学に興味のある方が多いのではないかと予想していましたが、社会的な必要性を感じている方が多いことがわかりました。

日本国内で多文化・多言語な地域が増えてきています。「日本に住むなら日本語を」ということをクローズアップしすぎてはいけなんでしょうが、今の日本では母語が日本語でない人が日本語を学習する機会が保障されていないことを考えるとき、ボランティアの必要性が増加することでしょう。

日本語教授者がボランティアによって半数占められているという文化庁の統計が現状を現わしています。

日本語学習支援を住民が担うことにより、地域で人間関係が広がっていくのはいい点であるでしょうが、国としての対応策も必要になってくるでしょう。

ボランティア活動についての集計結果は以下の通りです。

ボランティア活動について

- ・ここが初めて（18名）
- ・以前から同種類の活動をしている
（期間省略）（2名）
- ・以前、別の活動をしていた/
以前から別の活動をしている（8名）

→どのような活動ですか

- ・留学生の家族の支援
- ・福祉関係の活動
- ・N A L K 老人介護ボランティア
- ・日本語学校の生徒の補習授業
- ・K I C C
- ・手話サークル
- ・地域の独居老人の安否確認や配食
- ・朗読
- ・手話
- ・ホームステイ受け入れ

ボランティア活動としては、災害地支援や清掃活動など種類も多くありますが、上記でみると対人関係の活動をしている（されてた）方が多いです。

以上簡単にまとめると、続けている理由として「楽しいからね。いろいろな人に出会えるし、人の役に立つし、頭の体操にもってこいだし！」でまとめてみるのはおおまかすぎるでしょうか。

今回、数多くのご意見を伺い、おひとりおひとりしっかりと考えていらっしゃることがわかり嬉しく思いました。

最後にアンケートの項目がわかりにくかったことをお詫びいたします。

ご協力をどうもありがとうございました。

（奥 優伽子）

◆お国紹介

私は2005年9月25日に日本へ来ました。その時私は日本語がぜんぜん分かりませんでした。子どもが幼稚園入る前の手続きが難しかったです。3年ぐらい日本語を勉強しています。

私は中国の広州から来ました。広州では雪が降りません。私は日本へ来るまで雪を見たことがありませんでした。

広州は食べ物が何でもおいしいです。みなさん広州行ったらぜひ食べてください。広州は香港の近くです。海はちょっと遠いです。人が多くて、ビルがたくさんある都会です。

おすすめデザート「くわい餅」の作り方

■材料

- ・くわい粉
- ・くわい（あれば入れてください。食感がよくなります）
- ・水
- ・砂糖

※くわい粉は南京町で購入できます。

■作り方

- ① ボールにくわい粉500グラムと水300ccを入れ、よくこねます。
- ② 鍋に砂糖を入れ、金色になるまで炒めます。そこに水500ccを入れ、よく混ぜます。
- ③ ①のボールに②を入れて、よくこねます。
- ④ 適当な容器（バットなど）に入れて、蒸し器で蒸します。
- ⑤ できあがったら適当な大きさに切ります。

冷蔵庫で冷やして、またフライパンで焼いて食べてもおいしいです。

(日本語学習者 蘇彩芬)

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆多文化子ども共育センター（MOI）オープン！

5月31日、多文化子ども共育センターのオープニングパーティが開催されました。当日は来賓の方々、スタッフも含めておよそ80の方が来てくださいました。県会議員、市会議員、いつも活動を支えてくださる各団体、外国人の子どもたちの勉強をサポートしてくださっている支援者の方など多くの方に参加していただき、素晴らしいオープニングパーティでした。

私も当日参加した内の1人でしたが、司会者という役目があり、パーティの間中、必死でドキドキと緊張が消えませんでした。プログラムの中では韓国の方によるチャングの演奏と歌、インドネシアの方のガムランの演奏、ベトナムの楽器“一弦琴”の演奏、そして神戸大学のモダン・ドンチキの方々の演奏などがあり、どの演奏もそれぞれの国の特徴が出ていて、普段簡単には見ることができないため、貴重な機会だったと思っています。

多文化子ども共育センターという新しい事業が誕生したことに、本当に嬉しく思っています。なぜなら、私自身も子どもの頃、このセンターと似た私たち外国人の勉強をサポートして下さる場所で支えられてきました。支援者の方は一生懸命「どう伝えれば理解してもらえるのか」と指導方法を考えながら、長年勉強に付き合ってくださいました。そして、私も2年前ここで支援者としてしばらく子どもの勉強をサポートし、いろんな背景におかれた子どもたち一人一人に対しての対応の仕方を考えながらやっていきました。今からさらに進化するこの多文化子ども共育センターは、きっと日に日に外国人児童の支援に向けて発展していけることと思っています。事業をより向上させるために、1つ欠かすことができないのは、これまでのようにいろいろなところからの支援なしでは良いものを創りあげられないということです。子どもの未来のためにも、今後どうか支援と共に温かく見守っていただけたらと思います。

(トランティティエンアン)

◆5月研修会「ボランティア日本語教室での外国人児童への日本語指導、教科指導の工夫」

5月の研修会では本山第二小学校の村山勇先生に来ていただき、子どもを対象とした日本語、教科指導の方法やその工夫についてお話してもらいました。村山先生は長年外国人の子どもを指導し、現在は灘区にある「灘わくわく会」という子どもの学習教室でも子どもたちに日本語や教科学習を教えておられます。

研修会ではまずボランティア日本語教室での子どもたち、支援者、そして教室そのものの現状や問題点についてのお話がありました。特に子どもたちの現状、問題点として次のことがあります。①日常会話できるが系統的な日本語学習がない上に、各学年の教科学習が断片的に乗っている。②教科学習の積み重ねができていない（5年生なのに1年生の漢字が書けない、1年生の漢字が書けないのに5年生の漢字は少し書けるといった状態）。③ボランティア教室の週1,2回の勉強では、多くのことができない。④ボランティア教室に来て友だちができることがある反面、集中できないこともある。⑤日本語の間違いを訂正されることがないまま使っているため、間違いを直すことが難しくなっている。⑥母語の能力が低下し、さらに教科学習にも自信が持てない。支援者の現状、問題点としては、大きく子どもたちに日本語、教科学習を教えるポイントがわからない、その技術に自信がないのではないかとといった指摘がありました。確かに自分たちの子どもの頃とは教科の内容や語句が変化していますし、実際にわかっているとしても教えることは難しいものです。

そこで村山先生は、指導の工夫として次の5つを教えてくださいました。①集中力を保つために机を壁に向けておく。②教えるときに言わせる、書かせる、隠して言わせる、聞いて指差しさせる、応用問題に答えさせる。③子どもに合わせて、話し方のコントロール（簡単に、ゆっくりと、動作を付けて）、内容のコントロール（子どものレベルに合わせて）をする。④子どもに合わせてレベルの日本語、教科学習を選択する（算数はつまずいている原因までさかのぼる）。⑤子どもの母語と日本語の違いを理解し、指導に活用する。

研修会では実際に算数の問題文を読み、子どもたちにとってどこが難しいのか？またどうすれば理解しやすくなるのかということを支援者同士で考えてみました。たとえば算数の文章題では、「りんごを8個買いました。60円まけてもらって900円はらいました。りんごは、1こ何円のねだんがついていたのでしょうか」という問題がありました。では、子どもたちにはどの部分が難しいのでしょうか？この問題では、「まけてもらって」という部分が子どもたちには理解しにくい部分です。それでは、どうすれば子どもたちに理解しやすくなるのでしょうか？この場合、絵や図を描くことができます。それ以外の問題の場合でも、難しい言葉をわかりやすい言葉に置き換える、不必要な情報はいっそのこと省いてしまうなど、さまざまな方法があることを教わりました。

今回の研修会では明日の支援からすぐ使える支援の工夫をたくさん学ぶよい機会になりました。

（矢根 寛子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆先生の日

金曜日の午前中一時間半ほど、ハナの会で識字教室がもたれています。西田先生を中心に、桂先生、ボランティアが数名でお手伝いをします。いつもオモ二たちの笑い声に、こちらも楽しい気持ちにさせられています。

5月のスズンエナル（先生の日）には、「先生ありがとう」の色紙をいただきました。一人一人がメッセージを折り紙に書いて色紙に貼ってある、心のこもったプレゼントでした。そして、昼

食のピビンバと一緒にいただきました。ピビンとは混ぜたという意味だそうですね。スッカラ（スプーン）でご飯の上の色とりどりの具材を混ぜて、すっかりなじんだところで食べるのです。いろんな味が口に入ると広がって、大変美味しくいただきました。たっぷり盛り付けて下さったので、お腹いっぱいでした。

今、世界は各地で憎み、争いが起こっています。ピビンバのようにいろんな食材（国籍、人種など）がみんな混ざって、美味しいご飯に=ひとつになっていくといいと思いました。

いつもスタッフの皆さんは、ハナの会のお部屋が楽しくなるように、季節ごとの飾り付けを考えて作られています。今は紫陽花がたくさんできています。お忙しい毎日の仕事の中で、私達にまでお心遣いいただき恐縮でした。

チャル モゴッサムニダ！ （識字教室ボランティア 金光 滋子）

■■■ 今後の予定 ■■■

■お盆休み

8月13日（木）～15日（土）

■研修会

7月11日（土）13:30～15:00

「学習者の立場から～学習者をお招きして、
支援を成功させる秘訣を考える」

於 デイサービスセンターハナの会

9月12日（土）13:20～15:30

「神戸から世界へ旅立った場所（神戸市立海外移住と文化の交流センター）を見に行こう」

■日本語ボランティア養成講座（初心者コース）

5月16日（土）～10月17日（土）

13:30～16:00 於 アスタくにつか4番館 ■外国人のための緊急就職支援講座

8月2日（日）13:00～17:00

於 海外移住と文化の交流センター

■多文化共生を考える研修会2009

8月19日（水）、21日（金）、26日（水）、28日（金）

14:00～16:00

於 海外移住と文化の交流センター

国際健康開発センター交流ホール

■夏休み勉強会

7月24日（金）、31日（金）、8月7日（金）13:30～17:30

8月24日（月）、25日（火）、27日（木）14:30～

■先輩に聞いてみよう！～KFCで学習している子どもたちと高校生との交流会～

7月16日（木）19:00～20:30

■キツザニア甲子園へ行こう！

8月5日（水）

■ **フルーツフラワーパークへ行こう！**

8月30日（日）